

平成19年2月14日

ツシマヤマネコの棲む森づくりへ森林を提供

住友大阪セメント株式会社（本社：東京都千代田区、社長：渡邊 穰）は、日本で最も絶滅が危惧される『ツシマヤマネコ』保護を目的とした森づくりのため、長崎県対馬市舟志(しゅうし)地区に所有する森林 16ha を無償提供することを決定しました。

これは、対馬野生生物保護センター・対馬市・舟志地区代表ならびにNPO団体『ツシマヤマネコ応援団』の皆さんの希望と、対馬に森林を所有する当社の自然環境保護の考えが一致したことにより実現できた取り組みで、『ツシマヤマネコ保護』を目的として行政・ボランティア・企業が一体となって森づくりに取り組む活動は初めての試みとなります。

1. 背景

当社のコアビジネスであるセメント事業では、セメントを製造する上で、原材料として石灰石、粘土、けい石といった鉱物資源を使用しています。これらの鉱物資源を入手するためには、やむを得ず森林を切り開き、地下に眠る鉱物資源を採掘していかざるを得ません。当社は、鉱山開発に当たっては「緑豊かな森林の再生・維持」の大切さを忘れることなく、各鉱山の地形・気象・植生条件などを勘察した上で、採掘跡地や堆積場の植生・緑化を行ってまいりました。

一方、当社は今秋、創業百周年を迎えることから記念事業の一環として、社会貢献活動の一つとして当社が所有する山林の一部を間伐するなど手を加えることで樹木の育成に適した環境を再生する（CO₂の吸収能力を高める）ことを検討しておりました。

このようななか、昨年4月、環境省/対馬野生生物保護センターが支援する「ツシマヤマネコ応援団」から、地域・地元行政ならびに環境省の総意として、当社遊休地のうち約 16ha を「ツシマヤマネコ保護のためのモデル林としたい」との申し入れを受けました。この取り組みの主旨は、間伐、皆伐および植林を行い健全な森林を育成していくことで、絶滅の危機に瀕するツシマヤマネコの保護を推進していこうというものです。

この申し入れは、当社の遊休地の環境保全に向けた意向に沿ったものであり、加えて「絶滅の危機にある稀少動物の保護活動」に役立つものならばこの上ない機会と考え、今回協力させていただくことと致しました。

2. 当該用地について

当該用地は、当社の主力工場である赤穂工場で使用する副原料（粘土）を採掘する用地として、かつて取得したもの（総面積約17ha）ですが、その後セメントの需要が減少に転じたこと、セメントの原燃料代替として産業廃棄物・副産物の活用を促進していくなかで粘土の代替品である石炭灰や鉄鋼スラグの利用が増加したことから、天然の粘土を使用する必要がなくなり、開発を凍結し、今日に至ります。

3. モデル林事業について

本「モデル林」事業は、当該用地を数ブロックに区分けし、今後5カ年をかけて森林の質の維持および向上に必要な対策（主として伐採、間伐、植林）を行い、その効果を確認していくものです。

本事業において、当社は、用地を提供するとともに森林の間伐や皆伐を行い、モデル林の確立に努めてまいります。

4. 最後に

当社は、これらの試みがCSR活動の一環であるとの認識のもと、各関係者の取り組みが良い結果につながるよう、グループをあげて物心ともに協力してまいります。

《記者会見のお知らせ》

本件に関する記者会見を以下の通り開催致します。

日 時 : 平成19年2月16日(金) 15時~

場 所 : 舟志生活館

長崎県対馬市上対馬町舟志乙 361 TEL 0920-86-2965

発表者 : 舟志の森づくり推進委員会

対馬市上対馬町舟志区
ツシマヤマネコ応援団
対馬市
住友大阪セメント株式会社

【お問い合わせ先】

住友大阪セメント株式会社 総務部 I R 広報グループ TEL 03-5211-4505

舟志の森づくり推進委員会事務局 対馬市自然共生班 TEL 0920-53-6111

以 上

【資料：1】《ツシマヤマネコとは》

ツシマヤマネコは、わが国では長崎県対馬にのみ生息し、かつては対馬島内全域にわたり広く分布していましたが、現在は生息環境の悪化等により絶滅が危惧されています。

平成6年に、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称『種の保存法』）」に基づく国内希少野生動植物種に指定され、平成7年に同法に基づく保護増殖事業計画（環境省及び農林水産省告示）が策定され、保護の取り組みが進められています。

平成14年に環境省が公表したレッドデータブックでは、絶滅危惧IA類に分類されており、平成17年9月に発表された調査結果によると、現在野生下には80～110頭生息していると推定されています。

【資料：2】《森づくりについて》

森づくりを推進するにあたり、当社は、対馬市上対馬町舟志地区、ツシマヤマネコ応援団、対馬市観光商工部観光交流課自然共生班と「舟志の森づくり推進委員会」を発足させました。

同委員会では、当社が所有する舟志の森において、委員会の構成員が協力して森林管理を推進することで、森林の質を向上させ、ツシマヤマネコをはじめとする対馬の野生生物の保全に取り組み、人と自然が共生するモデル森を確立すること、また市民、企業、行政、ボランティア団体の協働を通じて、森林保全及び野生生物保全に対する意識の向上を図ることを目的として活動していきます。

その具体的な活動は、舟志の森について当面5年間の管理方針を定めた「舟志の森管理計画」を作成し、それに基づいて森林管理を進めていきます。

森林管理の概略として、スギやヒノキの人工林については、間伐を行い適切に植林地の管理を進めるとともに一部の区域では皆伐を行い、皆伐跡地に広葉樹の苗を植樹することで舟志の森の生物多様性を向上させます。

一方、二次林のような自然度の高い森林については、現在の環境の維持・保全を図ります。

【資料：3】《関係者一覧》

- 1 . 対馬市上対馬町舟志地区
代表者：古藤精一（区長）

- 2 . ツシマヤマネコ応援団（事務局：対馬野生生物保護センター）
代表者：野田一男（会長）

- 3 . 対馬市観光商工部観光交流課自然共生班
代表者：松村良幸（市長）
連絡先：0920-53-6111（担当：玖須）

- 4 . 住友大阪セメント株式会社
代表者：渡邊 穰（社長）
連絡先：03-5211-4516（担当：総務部 I R 広報グループ）

- 5 . 対馬野生生物保護センター
代表者：佐々木真二郎（環境省職員）
連絡先：0920-84-5577

